



うちどく（家読）で読みニケーション

～本をコミュニケーションツールに
家族で本を読み、読んだ本で話す「うちどく」のすすめ～

コンセプト

「うちどく(家読)」は読書を通してコミュニケーションを図ろうという試みです。

学校で毎朝実施されている「朝の読書」の広がりによって、子どもの読書量は増加傾向にあります。そこで、子どもたちの読書の習慣を家庭にも広げ、家族で感想を話し合ったり、本をすすめあうことで、家族のコミュニケーションを深められたら、そんな思いから2006年12月に「うちどく」の推進をスタートしました。



また、昨今の子どもたちの体力・学力の低下は、夜更かしや朝食抜きなど生活リズムの乱れが要因と言われています。そんな中、学校での「朝の読書」は集中して授業に入れるなど生活リズムの向上に寄与しています。「うちどく」はこうした読書の効用を家庭にも取り入れ、読書体験を家族で共有することで、生活リズムの向上にもつながる活動として、国民運動「早ね早おき朝ごはん」^(※)の趣旨にも沿った活動です。



読書は個人的な体験ですが、感想を話し合ったり、人にすすめたりして言葉にすることで、コミュニケーション能力や読解力、表現力を高めることにもつながります。「うちどく」は、子どもも大人も一緒に成長し心の豊かさを育む活動でもあるのです。

※トーハンは「早ね早おき朝ごはん」全国協議会会員です。

実践方法

「うちどく」のやり方に特に決まりはありません。基本は“読んだ本について家族で話す”ということだけです。それぞれの家庭の事情にあわせて、習慣的に本をめぐる会話を楽しむ。同じ本を読めば会話がいつそう盛り上がります。決まりはありませんが、推進の指針として参考にさせていただきたいのが、子どもたちが考えてくれたうちどくの約束です。

子どもたちが考えたうちどくの約束

- ① 家族で同じ本を読もう！
- ② 読んだ本で話そう！
- ③ 感想ノートをつくろう！
- ④ 自分のペースで読もう！
- ⑤ 家庭文庫をつくろう！

取り組み事例

☆印は 2014 年 3 月改訂時新規追加

■北海道（推進開始：2011 年 1 1 月）

イメージキャラクターで朝読・家読を推進

2011 年 1 1 月、道内の小・中学生から応募のあった 1,796 点の作品の中から、北海道「朝読・家読運動」イメージキャラクター「ぶっくん」を決定。

2012 年 1 1 月には「ぶっくん」の着ぐるみを製作し、道内市町村で実施する読書イベント等において活用し、子どもたちから好評を得ている。



北海道「朝読・家読運動」
イメージキャラクター
ぶっくん（下は着ぐるみ）

■北海道恵庭市（推進開始：2009 年）

独自のうちどくノートとブックリストを作成、配布

「うちどくノート」を作成し、小・中学校と連携して児童・生徒へ配布。家読（うちどく）にオススメの本を紹介した「ブックリスト」を無料で配布している。また「ブックリスト」内の作品を読み終わった人が、うちどくノートに貼って活用できるように工夫した「よんだよシール」を作成し、配布している。ブックリストに掲載している書籍は図書館に展示。その他、うちどくに関連した講演会なども開催している。

■北海道湧別町（推進開始：2010 年 10 月）

読書記録用のノートを配布

2010 年 10 月、湧別町湧別図書館にて「うちどくコーナー」を設置し、本を入れ替えながら展開。2011 年 1 月、推進の一環として読書記録用の「どくしょノート」を同図書館で作成し配布。

■青森県板柳町（推進開始：2007 年 8 月）

「毎月 30 日はノーテレビ・ノーゲーム・家読デー」

2007 年 8 月、青森県板柳町「第 22 回町民のつどい・うちどくのススメ」開催。毎月 30 日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」とする。

2008 年 5 月「いたやなぎ 読む読むフェスティバル」開催。「読書のまち」を宣言。「ノーテレビ・ノーゲーム」に「家読」を加え、「毎月 30 日はノーテレビ・ノーゲーム・家読デー」として町の広報誌等で PR。

2010 年からは、小学校 4～6 年生の児童が司書としての基礎知識を学び図書館の仕事を経験することで読書活動を推進するリーダーを育成する「子ども司書養成講座」をスタート。学校・地域・家庭で読書や家読の楽しさ、大切さを広めていくリーダーの育成を進めている。

2011年11月「第3回家読サミット in 板柳～家読で深い絆のまちづくり～」を板柳町で開催。ノンフィクション作家の柳田邦男氏による基調講演や共に家読推進に取り組む佐賀県伊万里市長、茨城県大子町長、板柳町長によるシンポジウム、家読実践家庭による座談会などを通じて、更なる家読推進に取り組むことを誓った。また、サミット前日には「第1回子ども司書推進全国研究大会」を開催。

2012年10月「親と子のコミュニケーションと読書」と題し、「家読」の実践発表を交えた講演を開催。

*2008.3.23 読売新聞広告特集「家族で本のお話をしようよ！」 青森県板柳町の子ども会議を紹介

■青森県野辺地町（推進開始：2008年3月）

「毎月20日は家族ふれあい読書デー」

2008年3月、「野辺地町子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭での読書を啓発。2009年7月、「家族ふれあい読書デー」を制定。2010年2月「家読（うちどく）」講演会を開催し、本格的に家読の推進を開始する。

2010年度、国民読書年記念事業として家読の推進をテーマに事業を展開した。①家読標語コンクール ②家読でスタンプライブラリー開催 ③家読におすすめの本 300冊～家族ふれ愛読書リストの発行 ④うちどくノートの作成と配布 ⑤家読におすすめの本のコーナーの設置 ⑥「ふれあい教育の日」フェスティバルで講演会等の開催。

2011年度から、家読の基盤として「親子ふれ愛読書・親子の絆を深めるブックスタート事業」を開始。ブックスタート・パックの中に、絵本などの他、家読のCD、ブック・ガイド「親子・家族で一緒に楽しむ赤ちゃんの絵本0・1歳」、図書館利用案内の発行（家読とブックスタートPR版）を入れ、プレゼントしている。

2013年度からは、「我が家の一押し家読ポップ展」や「我が家の家読イラスト・写真展」などのイベントを開催し家読のPRを行っている。

■岩手県雫石町（推進開始：2008年4月）

「家庭読書」を提唱

雫石町教育振興運動の一環として、〈読書大好き雫石っ子〉を合言葉に読書推進に取り組んで、家庭での読書を啓発。2008年度より以下の4項目に取り組み。

- ・父母も巻き込んでの読み聞かせお話を実施。
- ・「我が家のおすすめの一冊」を紹介する読書カードを親子で作成。
- ・「雫石町親子読書のつどい」を開催。（2013年までに7回実施）
- ・「家庭読書」（家読）を啓発。

家読の4原則を提起し、小学校単位に組織された実践区で具体的に実践。

- (1) 家の人みんなで読書（少なくとも2人以上）
- (2) 好きな本を読む（新聞・雑誌も可、但しマンガはダメ）
- (3) 20分間、テレビなどを消して読む
- (4) その時間中、本は取り替えない

■茨城県大子町（推進開始：2007年4月）

「読書のまち」宣言で心の豊かさを育てる町づくり

2007年4月、大子町うちどく（家読）推進事業開始。町内の小・中学校各1校をうちどく（家読）推進指定校として実践開始。

2007年6月「読書のまち」を宣言。同年9月文部科学省「『読む・調べる』習慣の確立に向けた実践研究事業」の推進自治体として2ヵ年の指定を受ける。10月大子町「子ども読書の街」推進委員会を組織し各事業の推進をスタート。「家読（うちどく）」など読書を通じて心の豊かさを育てる町づくりにより第1回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」受賞。2009年6月から「大子町児童生徒読書活動推進委員会」を組織し、様々な事業を進める。推進ツールとして、「うちどく（家読）Q&A集」を作成。また、町内の小・中学校の中から数校を「推進指定校」に1年間指定し、学校ごとの個性を生かしたうちどく（家読）の取組みを実践。

広報活動として、町内全ての小・中学校が「うちどく（家読）だより」を作成し、家庭及び地域の意識高揚に取り組んでいる。

2010年3月に策定した大子町第5次総合計画（対象期間：平成22年度～31年度）において、うちどく（家読）を「住みよいまちづくり」の主要な施策として位置付けている。

*2006.12.20 読売新聞広告特集「家ではボクたちが先生さ。」 茨城県大子町の子ども会議を紹介

*2010.10.27 朝日新聞広告特集「家族で読書、地域で読書 『うちどく（家読）』で広がるコミュニケーション」 茨城県大子町の取組みを紹介

■茨城県牛久市・牛久市立中央図書館（推進開始：2009年11月）

「としょかんまつり」でうちどくイベント開催

2009年11月、としょかんまつり特別企画「キューちゃんファミリーうちどく開始!!」を開催し、子どもや保護者にアピール。2010年4月には、実践している家庭にわが家のうちどくを紹介してもらう「うちどく体験発表会」と「うちどく講演会」を開催。また、1冊分を記入する「うちどく用紙」と継続して記入できる「うちどくノート」を作成し、館内および毎年夏休み・冬休みに市内小・中学校で全児童・生徒に配布。毎年春と秋に開催している、こどもととしょかんまつり、としょかんまつりで「うちどく（家読）コーナー」を設け、図書館におけるうちどくの活動紹介、児童・生徒のうちどく用紙を展示。うちどく用紙は、市役所と牛久駅前出張所エスカードプラザの「市民の作品ミニ展示会」でも展示している。また、うちどくの見本として、2013年夏休み前より「うちどく用紙展示物」の市内小・中学校へ貸出を始める。

さらに、「うちどくにおすすめる本のリスト」を作成し、館内のイベントコーナーで紹介する他、図書館発行の「としょかんだより」で、うちどく（家読）のコーナーを連載するなどして、利用者へ呼びかけている。

2013年10月には、ノンフィクション作家・柳田邦男氏によるうちどく講演会を開催。子どもへの絵本の読み聞かせの重要性と、大人にとっての絵本や読書の重要性について講演いただくことで、絵本の持つ力を大人にも広め、絵本によるうちどくの推進を図った。

うちどくの推進を含む、牛久市子ども読書活動推進計画を策定済。（2013年3月）

※キューちゃん：牛久市のイメージキャラクター

■神奈川県大和市（推進開始：2012年2月）☆

毎月23日は「やまと家読（うちどく）の日」

2012年2月に「こども読書力向上プラン（計画期間2012年度から2016年度）」を策定し、その実施計画に「家読の推進」を重点項目として位置付け。

2013年10月、毎月23日を「やまと家読（うちどく）の日」とすることを発表。家読を啓発するためのリーフレットや読書記録用「家読ノート」を作成し、市内各小中学校や図書館の来館者へ配布。家読に適した本を紹介する、家読ブックリスト「おうちで読もう！」発行。リーフレット、家読ノート、家読ブックリストは図書館のホームページで公開。



大和市 家読推進キャラクター
うちどく

■山梨県（推進開始：2012年10月）☆

家族みんなで「おうちで読書」～家族でコミュニケーションあっぷ～

山梨県教育委員会では、子どもたちが自分や他人の生き方・存在を認め合い、自他を敬愛する「しなやかな心の育成プロジェクト」を推進し、その一環として、読書をきっかけに家族のコミュニケーションを深める「家読推進運動」に取り組んでいる。

1年目は主に周知活動として、家読ロゴマークの作成、家読ポスターの作成・配布、学校を通して家庭向け資料「冬休み家読のすすめ」の配布を行った。

2年目の2013年度は、さらに周知活動に力を入れ、以下の3項目に取り組んだ。

- 「家読100選」パンフレット作成・配布…「子どもに読んでほしい本」「一緒に読みたい本」を県民から公募し、図書館司書らでつくる選定委員会での推薦図書も含め、約820冊の中から175冊を厳選。阿刀田高 山梨県立図書館長の監修の下、「乳幼児」「小学校1、2年生」「小学校3、4年生」「小学校5、6年生」「中高生」の各年齢層ごとに30～50冊の推薦図書を決め、県HPで公開するとともにパンフレットを作成。作成したパンフレットは、県内の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校を通じて配布した。
- 「家読」フォーラム開催…10月に山梨県立図書館にて、「家読フォーラム」を開催し、約180名が参加。阿刀田館長の講演に始まり、パネルディスカッションに至るまで、本の魅力、家読のよさについて、さまざまな方からお話をいただいた。
- 「家読クイズ」作成…冬休みに合わせ、家庭向けの啓発資料として「家読クイズ」を作成し、県HPで公開するとともに学校を通じて啓発資料を配布した。



山梨県 家読ロゴマーク

■愛知県知多郡美浜町・美浜町図書館（推進開始：2008年8月）

「うちどく情報BOX」で情報収集

2008年8月、家読講座開催。チラシ「『家読（うちどく）』しましょ!!」を図書館内に掲示して呼びかけ。「うちどくぶっくガイド」を作成し、「うちどく」に適した本、及びうちどく実践例を紹介。また「うちどく情報BOX」を館内に設置して、利用者から情報収集し、集まった情報は「うちどくぶっくガイド」で紹介している。

■岐阜県可児市（推進開始：2007年12月）

「うちどく（家読）^{テン}10」を推進

2006年3月に策定した可児市子どもの読書活動推進計画をより具体的に実効性のあるものにするために、2007年12月に「可児市子どもの読書活動推進計画アクションプラン」を策定。

「より多く読む」「よりよく読む」の2点から抽出された重点プロジェクトの目玉として「うちどく（家読）10」を推進。「10（テン）」の意味や目標を家族で話し合っ決めてもらおうと、下記を参考に示している。

- ・1ヶ月に家族合わせて10冊の本を読もう！
- ・1年間に一人10冊以上の本を読もう！
- ・毎日、家族みんなで10分間本を読もう！

2008年8月には、図書館の児童コーナーに、絵本のガイドブックや季節のおすすめ本などを置いた「うちどく（家読）10」コーナーを設置。

「うちどく（家読）10」リーフレットを対象年齢別に作成。2009年に市内全小学生、2012年に市内全中学生及び市内、近隣の高校生に配布。

2013年に「うちどく（家読）10」通帳を作成、希望者に無料で配布。借りた本の書名を記録できる「読書通帳」で、本の値段を書いておくことができる。通帳1冊（100冊分）の記入が終わった方には図書館から賞状を贈る。2014年3月までに10名以上の利用者に賞状を授与した。

*2009.10.27 朝日新聞広告特集「読書で家族のコミュニケーション」 可児市在住の家族を紹介

■岐阜県可児郡御嵩町・御嵩町立伏見小学校PTA（推進開始：2009年4月）

PTA活動で「うちどく」を積極推進

2009年度PTAスローガンとして「～子どもたちの輝く未来のために～家読で深める家族の絆」を設定。

- (1) 家庭教育学級を家読推進の柱とする
- (2) 親子奉仕作業で図書館の充実を図る
- (3) 親子活動に家読の内容を盛り込む
- (4) PTA広報誌にて家読を特集

以上の家読推進計画に基づき、「家読講演会」や「お父さんの読み聞かせ」「読書に親しむ会」など、積極的にPTA活動を展開。夏休み・冬休みを利用して行う「一家庭一実践」の題材に「うちどく」を選ぶ家庭が増え、読書量の増加、本を通じた家族のコミュニケーション増といった成果を挙げている。2009年11月可児郡PTA研究大会にて家読の取り組みについて発表。2011年度以降も、PTA・家庭教育学級で、「お父さんのための読み聞かせ講座」を設け、講座を受講した父親たちが、全てのクラスで読み聞かせを行う活動を継続中。

*2009.10.27 朝日新聞広告特集「読書で家族のコミュニケーション」 岐阜県御嵩町在住の家族を紹介

■大阪府東大阪市（推進開始：2010年4月）

「朝の読書」に加え家庭での読書活動を推進

読書活動の取り組みとして、全小中学校で「一斉読書」に取り組んでおり、2010年が国民読書年であることをふまえて各学校に一層の読書活動の推進を啓発。各学校においては、図書館担当を中心として異学年交流もかねた本の紹介活動や地域ボランティアを活用した読み聞かせ活動など様々な取り組みをしている。また、東大阪市の教育活動について市民・保護者に周知し協働することを目的とした「東大阪市教育フォーラム」にて、“「朝読（あさどく）」から「家読（うちどく）」へ”と銘打ち、小中学校で取り組まれている「朝読」に加えて「うちどく」ホームページを紹介し、家庭での読書活動の普及にも努めている。

■大阪府豊能郡豊能町（推進開始：2012年4月）

リレーうちどく（家読）を中心に地域で協力して推進

豊能町リレーうちどく（家読）を中心とした読書推進事業として、2012年度から実施。豊能町教育委員会教育支援課を中心に、教育委員会生涯学習課、豊能町立各学校・園・所、豊能町立図書館、子育て支援センターすきっぷ等と協力しながら進めている。

- ・各校の特色に応じたリレーうちどく（例：学級ごとに生徒数のうちどく書籍を一週間ごとにリレー、夏休み中に親子読書を行い図書日よりで交流、親子スタンプラリー等）
- ・学校図書館司書と教育委員会共同制作のブックガイド「本のひととき」を配布して児童生徒・保護者を啓蒙
- ・保護者と児童生徒のうちどくコンサート（映画と書籍、音楽のコラボ）
- ・各校・園・所による読書推進チラシの作成・配布（2013年度10枚）
- ・地域ボランティアによる読み聞かせ、エプロンシアター、影絵
- ・図書館との共催による原画展、講演会
- ・「本のソムリエ」プロジェクト（2013年度29名認定）

推進ツールとして、「本のひととき」の他、うちどくカード、うちどくバッグ、うちどくマップなどを作成し工夫している。

■和歌山県和歌山市（推進開始：2011年1月）

「うちどく」で言葉を育て心を磨く～そのうち「徳」するうちどく～の取組

2010年度「子育て創生事業」の一環として「そのうち『徳』するうちどく」をスローガンに推進。2011年1月、読書環境整備のため、うちどく用図書を購入し、市立の幼稚園13園、小学校52校、中学校18校、保育所24所、児童館8館に配布。また、子どもたちが保護者や友だちと読書の思い出を記録・共有できるように、幼児用、小学校低学年・中学年用に「うちどくノート」を、小学校高学年用と中学校用には「共読（ともどく）ノート」を配布。（その後うちどくノート小学生用を、和歌山市独自教材「紀州っ子学びノート」に併合）さらに、2011年2月より「うちどく」講演会や和歌山大学との連携によるサテライト事業「うちどく講座」などを開催し、読書の重要性を理解しながら、親子で読書活動をすすめ、ともに育ちあう親子関係を築くことを目指している。

2012年から、毎月第1土曜日を「うちどく」の日に設定し、市内すべての幼稚園、学校、家庭、地域、関係機関等が連携しながら子どもの読書活動を推進。2012年度は、幼稚園・学校にうちどく用図書を購入し配布した。2012年11月3日（土・祝）の和歌山市教育・学びあいの日に、優れた取組を行った5校園を、「うちどく優秀実践校」として表彰し、実践発表会を行った。

2013年度は、「うちどく推進」のパイロット校として20校園を研究校に指定し、「子どもの言葉を育て心を磨く」うちどくの取組を展開した。2014年度は、引き続き「うちどく推進校」を指定し、うちどく事業を推進する予定。また、今後「うちどく」の日について、教職員はもとより保護者や地域に一層周知徹底して、学校が中核となって、保護者や地域、市民図書館やコミュニティセンター図書室と連携し、「うちどく」がしっかり根付き、読書好きの子どもが育っていくよう、より一層「うちどく」を推進していく。

■広島県 熊野町（推進開始：2012年4月23日）

感想を共有する事で絆を深め良好な家庭環境を醸成

家庭において子どもと家族が同じ本を読み、その感想を共有する事によって互いの絆を深め良好な家庭環境を醸成し、子どもの教育環境向上に資することを目的として、継続的な取り組みに対する支援を行っている。

0歳から中学3年生までの児童・生徒に園、学校を通じて、またブックスタート等の機会に「くまのっ子うちどくノート」（以下ノート）を配布し、ノートが満了した児童・生徒に努力賞を進呈している。内容は以下の通り。

- ・子どもと家族の誰かが1週間のうち2日、15分以上テレビ・携帯電話などの電源を切り、本を読む。
- ・読んだ本の題名と誰が読んだかを記入し、読んだ人の確認。中学生については・作者名と内容も記入する。
- ・小・中学生は月に1回提出し、担任がチェックして、確認欄にサインする。年間80回分記入したら満了とする。
- ・満了したノートを教育委員会、各公民館、図書館、民生課、健康課のいずれかに提出すると、教育委員会の確認後、記念品が進呈される。

■愛媛県大洲市（推進開始：2013年11月）☆

おすすめブックリストやノートを作成・配布

2013年4月に大洲市子ども読書活動推進計画を策定し、家庭読書の啓発のため、うちどくの推進を施策のひとつの柱としている。

2013年11月、大洲市立図書館にて、家読で読んでほしい本を図書館職員が選定した「うちどくおすすめブックリスト」と家族で読んだ本を記録することができるオリジナルの「うちどくノート」を作成し、来場者に配布（図書館ホームページよりダウンロードも可能）。また、「うちどくおすすめブックリスト」に掲載した図書は、図書館内に“うちどくコーナー”を設けて展示している。

■高知県須崎市・日本で一番子どもたちが本を読むまちをつくる会

好きなだけ本を読める環境づくりのための選書会とアンケート

2005年5月に市民有志により「日本で一番子どもたちが本を読むまちをつくる会」発足。2006年1月、行政や学校の代表が加わり本格的な活動を開始。子どもたちが休み時間や放課後にいつでも本を読める環境づくりとして各クラスに学級文庫を設置。また、実際に手にとって読みたい本を選べる選書会を開催し、子どもたちの声をアンケートで吸い上げるなど子どもたちが好きな本を読める環境づくりを継続している。活動当初より募金で購入した本を須崎市の小中学校、幼稚園に毎年寄贈。子どもたちが本を家に持ち帰り、家族で読む「うちどくの輪」が家庭に広がるよう活動を続けている。その他、学級文庫の貸出ノートを作成し小中学校の各学級に配備、また「子ども司書」養成講座の講師として参加。

■福岡県小郡市（推進開始：2009年12月）

本の魅力を伝え、読書の楽しさを市民みんなで共有

市長公約（マニフェスト）の中の「読書のまちづくり日本一」に向けて子どもと本との出会いを支える取り組みを行っており、「ブックスタート」「朝の読書」に加えて2009年度から「家読」の推進をスタート。2009年10月、第1回家読サミット in 伊万里に参加。「広報おごおり」で「うちどく」について掲載。

○家読新聞コンクール…2013年度より本の魅力を伝える「本のPOP講座」を開催。最優秀賞を受賞した人には12月に行った表彰式で市長から表彰状を、表彰式に合わせて行われる講演会の講師（平成25年度は絵本作家の藤本ともひこさん）から記念品を授与。表彰式後、優秀作品は図書館のエントランスに展示した。

○モデル事業…2012年度より市内の保育所・幼稚園・小学校の3校をモデル校に指定、家読推進のための事業を行っている。2014年度よりモデル地区を加え、将来的には全市で取り組む予定。

①家庭での読書記録「うちどくダイアリー」配布

図書館の推薦図書リストと一緒に園児・児童に配布している。ダイアリーには「いつ」「だれと一緒に」「どんな本を読んだ」かを記録でき、子どもの成長とともに家族の読書の思い出をたどることができる。

②保護者を対象とした、読書に関する講演会開催

各モデル校区では保護者向けに「幼児期の読書体験」「メディアが子どもに与える影響」「父親による読み聞かせのすすめ」など、様々な分野で活躍されている講師にそれぞれの観点から家読の大切さを語ってもらう。

■佐賀県伊万里市（推進開始：2007年6月）

「うちどく」でつくる思いやりの心あふれるまちづくり

2007年5月、伊万里市長が「うちどく」市民運動宣言。同年6月、「うちどく」でつくる思いやりの心あふれるまちづくりの推進を開始し、黒川町をモデル地域に指定。2008年度はモデル地区を4町に拡大し、家読フェスティバルを開催。10月、第2回「文字・活字文化推進大賞」を受賞。2009年には「第1回家読サミット in 伊万里」を開催し、家読推進イメージソング「こころつないで」を初披露。2010年、さらに家読の取り組みを推進するため「子ども読書のまち・いまり」を宣言。また黒川町が家読の取り組みにより「優良公民館文部科学大臣賞」を受賞。2011年黒川町に「家読の郷」大看板を設置。波多津町、松浦町が家読フェスティバルを開催。2012年黒川小学校児童が「子ども国会」で家読について発表。2013年3月、黒川町の家読発表会に合わせて、「佐賀うちどくネットワーク」が発足。県内で家読に取り組む自治体や団体との連絡強化を図っている。さらに4月からは毎月第3日曜日を「家読の日」と位置付け、各学校でも家読の指導に取り組んでいる。そして12月、家読の九州大会である「九州うちどくネットワークフォーラム in 伊万里」を開催。約400名の参加者を集めると共に、「うちどくりフレッツ」を県内全ての学校・公民館・図書館に配布。2014年3月には大平地区でも初めての家読フェスティバルが行われ、市内外で家読の取り組みが広がっている。

*2007.10.27 朝日新聞広告特集「家でも本の話をしようよ！」 伊万里市の子ども会議を紹介

ロゴ使用のすすめ

ロゴマークは、うちどくの趣旨に賛同いただき、コンセプトに沿った取り組みであれば促進ツールやパンフレットなどに原則として自由にお使いいただけます。

ご利用いただけるのは、シンボルマーク (A) と子どもたちが考えたうちどく(家読)の約束 (B) です。お気軽にお問い合わせください。



(A)



(B)

うちどくツールのご紹介

●リーフレット

うちどくをすすめる読者向けリーフレットです。ご希望の際はお問い合わせください。A6判・二つ折り。(数に限りがありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください)



●実践ツール

うちどくがより楽しくなるツールをご用意しています。ホームページからダウンロードしてご利用ください。

[うちどくノート]

家族で共有する読書ノートです。家族の読書の記録として、また成長の記録として残すことができます。



[うちどくブックガイド]

うちどくにおすすめの本を紹介した小冊子です。こどもたちのおすすめや出版社のおすすめなど、いろいろな切り口で紹介しています。



*朝の読書の現状

学校での朝の読書は 2013 年に 25 周年を迎え、現在 27,950 校を超える小中高校で実践されています。児童生徒数にして実に 970 万人の活動に広がっています。(2014 年 3 月現在、朝の読書推進協議会調べ)

■うちどくホームページ

http://www1.e-hon.ne.jp/content/uchidoku_top.html または「うちどく」で検索

■お問い合わせ先

株式会社トーハン 広報室 TEL03-3266-9587/Fax03-3235-1337 | <http://www.tohan.jp>